

令和7年度 学校評価報告書 (目標設定・実施結果)

視点	4年間の目標 (令和6年度策定)	1年間の目標	取組の内容		校内評価		学校関係者評価 (3月10日実施)	総合評価 (3月19日実施)	
			具体的な方策	評価の観点	達成状況	課題・改善方策等		成果と課題	改善方策等
1 教育課程 学習指導	<p>①グローバル社会における多様な価値観を理解し、協働して社会で活躍できる人材を育成する。</p> <p>②学校行事や生徒会活動を通じて、主体的に課題に取り組む姿勢を養う。</p>	<p>①校内のICT機器、電子黒板等を利用し、生徒が主体的に学ぶ姿勢を養う授業を実践する。継続して学習アプリを活用し、個別最適な学習の主体的な取組みにつなげる。</p> <p>②外国語教育の充実、姉妹校等を含む国際交流、海外修学旅行等、国際社会と交流する力を育成する。</p> <p>③体育祭及び氷焱祭の時期が、適切かどうかを追検証する。</p> <p>④生徒が活発に委員会活動や行事に取り組み、自らの民主主義意識やコミュニケーション能力を成長させる場を設ける。</p>	<p>①教科や学年を超えて、ICT機器や電子黒板の効果的な使用方法を共有し、生徒の興味・関心を引き出す授業を実践する。ICT機器を活用し生徒間や教員との相互的な活動をもとに学びを深める。</p> <p>②学習アプリを活用し、個別最適な学習活動を行う。</p> <p>③オンライン交流で多くの生徒への交流機会を増やし、直接交流にてより深いコミュニケーションを目指す。</p> <p>④授業等で「話す」活動を積極的に取り入れ、プレゼンテーションコンテスト等を通じて発信する能力を育む。</p> <p>⑤教職員の多くが、学校行事、部活動等について本校HPの更新を積極的に行う。</p> <p>⑥各行事の準備等や後片付けが円滑に行われるよう工夫する。</p> <p>⑦生徒同士がコミュニケーションをとりながら、生徒主導で行事等を計画・実施できるよう、教員の支援体制を構築する。</p>	<p>①ICT機器や電子黒板の効果的な使用方法を共有し、生徒が主体的に学ぶことができたか。(授業評価の推移)</p> <p>②授業改善につながるような学習アプリ等の研修を実施できたか。</p> <p>③交流への参加機会の充実を参加した生徒数、交流時間等をもとに検証する。</p> <p>④国際交流に参加した生徒たちの達成感や充実感をもとに良い交流が行われたか検証する。</p> <p>⑤プレゼンテーションコンテストを通して、英語力で発信する力の向上を感じることや、グローバルな視点で問題解決の意識を養うことができたか。</p> <p>⑥令和6年度に比べて、HPの更新が進んだか。</p> <p>⑦各行事の進捗効率が上がった、また、生徒の主体性が活かされたか。各方面から振り返る。</p> <p>⑧生徒自身でも行事・委員会活動の振り返りを行い、自分たち主体で進められたかを検証させる。</p>	<p>①ICT機器や学習アプリの使用によって、昨年度同様、「私は授業に対して意欲的に取り組んでいる」の項目では95%を超える生徒が肯定的な回答をした。</p> <p>②年度初めにICT機器や学習アプリの活用についての校内研修を実施し、職員全体が授業に活用できる環境を整えた。</p> <p>③国際交流行事に参加した生徒にアンケートをとり、いずれもよい経験になっていた。参加した生徒の意見を聞く機会を設けた。</p> <p>④HP更新量についての量は昨年と同程度であったが、マニュアル整備や業務アシスタント委託により、更新している分野の幅が広がった。</p>	<p>①ICT機器や電子黒板の効果的な使用方法について、引き続き検討を行っていき。今後はその共有方法について模索していき。深い学びが可能となる授業改善につなげる。</p> <p>②引き続き、現在使われている学習アプリなどの研修を実施し、その活用方法を共有していく。また、新しく導入された電子黒板の活用について、今後検討を行い、職員間で共有していく。</p> <p>③引き続き、国際交流の良い機会を提供できるように、参加者の意見を聞きながら改善を進める。</p> <p>④引き続き、HP更新の量に関しては、作成する各部門が取り組みやすい状況をつくることで広報が活性化し土台を築いていく。</p>	<p>①ICT機器や電子黒板がよく使用されており、学習活動だけでなく、様々な連絡・情報共有手段として適切に利用を広げたい。</p> <p>②国際交流の機会は訪問や委員など限られたものでなく、幅広い生徒に対して機会を多く設けることが望ましい。</p> <p>③学校としての国際交流、グローバル教育の特徴を地域、中学生など外部に対して情報発信を行うことが望ましい。</p> <p>④HP等からの情報は中学生、地域への情報提供ツールとして有効性が高く、引き続き、HP更新を適切適宜行ってほしい。</p> <p>⑤動画や生徒自身によるコンテンツの充実などが望まれる。</p>	<p>①ICT機器や電子黒板の整備と活用の取り組みにより、深い学びや意欲関心を高める授業を展開できた。また学校行事においても有効に活用することができた。一方、ネットワーク環境の不安定さに課題を残した。</p> <p>②国際交流行事やグローバル教育推進は、様々な機会を通じて多くの生徒に機会を提供できた。負担を少なく機会を充実させることが望まれる。</p> <p>③HPの更新は適宜随時行うことで、生徒はもちろん地域や本校を志望する中学生や保護者に対して有効な情報発信を行うことができた。</p>	<p>①ICT機器、電子黒板等の教育用機材の充実と運用面、特にネットワーク環境の整備に努め、多くの教科・科目での活用とタブレット端末の活用を推進する。</p> <p>②姉妹校交流等による交流機会を広げること、普段の授業や学校生活の中で、オンライン交流や訪問の受入、研修や行事参加機会の拡充により多くの生徒に国際感覚を涵養できる環境作りを努める。</p> <p>③HPのみならず、学校からの情報発信をGoogle Classroom等多様なツールを有効に活用して多くの情報を適切に発信する。</p>
2 (幼児・児童・) 生徒指導・支援	<p>①生徒一人ひとりに寄り添い、教育相談体制を充実させる。</p> <p>②部活動や行事を通して連帯感や責任感の涵養を図る。</p>	<p>①かながわこどもサポートドックと教育相談(いじめ)アンケートのシームレスな実施を目指す。</p> <p>②SCとSSWと関係職員との連携が負担なく円滑に行えるよう工夫する。</p> <p>③生徒間の人間関係が健全に構築できるよう、指導を工夫する。</p> <p>④部活動の大会情報や活動報告を生徒の目に多く触れさせ、相互の活動を認め合い、チーム横浜水取沢としての連帯感を育む。また、救急救命講習会等を通し</p>	<p>①かながわこどもサポートドックの項目追加の工夫と、教育相談(いじめ)アンケートの実施により迅速且つ効果的に潜在的いじめ・いじりなどの早期発見・対応を行う。</p> <p>②定例コア会議の活用により、生徒の課題の情報共有と早期対応を行う。</p> <p>③生徒が、人間関係の不調などに起因する精神的な問題を乗り越えられるよう、精神的自立を促す指導を充実させる。</p> <p>④昇降ロモニターやHPを通して、生徒会活動や部活動の情報を頻繁に発信し、応援や活発な相互交</p>	<p>①かながわこどもサポートドックや教育相談(いじめ)アンケートにより明らかになった点を生徒支援に生かすことができたか。</p> <p>②コア会議が、生徒の抱える問題の気づきに活かされたか。また課題を抱えている家庭の把握に役だったか。</p> <p>③生徒が抱える課題について、どのような指導の工夫が可能であったか、意見集約したり結果から検証したりする。</p> <p>④部の活動状況や大会結果などを、必要十分な頻度で発信ができたか。</p>	<p>①かながわこどもサポートドックや教育相談(いじめ)アンケートで情報収集して明らかになった点や気になった点を丁寧に支援することができた。</p> <p>②コア会議が、生徒の抱える問題と課題を抱えている家庭の把握に役だった。</p> <p>③生徒が抱える課題に関する指導の工夫をコア会議・学年会・職員間の意見交換を通して共有することができた。</p> <p>④ホームページの部活動情報へ、昨年と同様に活動状況の報告が増加した。</p>	<p>①かながわこどもサポートドックのスクリーニングを効率的に実施しつつも、丁寧な分析と情報共有行って最適な支援を心がける。</p> <p>②いじめアンケートは速やかな実態把握ができて有効であるが、状況や実態に応じた独自のアンケートも場合によっては必要になる可能性がある。</p> <p>③難しい案件の数が増え、コア会議での情報共有において、案件の選別をしなければならなくなってきている。</p> <p>④課題を抱える生徒・家庭が非常に多く、意見交換</p>	<p>①生徒指導、理解、支援において、難しい対応が増え、合理的配慮の多様性が言われる中、よく対応いただいている。引き続きかながわこどもサポートドック、ケース会議などを活用し適切な支援をお願いしたい。</p> <p>②いじめ防止対応では、多くの情報や観察から早期発見と認知、速やかな実態把握と対応が重要である。引き続き丁寧な対応をお願いしたい。</p>	<p>①かながわこどもサポートドックや教育相談における相談事例や課題解決の取組が増え、生徒ひとり一人への丁寧な応答体制を整えることができた。増加する相談に適切に対応できるよう、研修機会や事例研究を行うことが必要である。</p> <p>②部活動の活性化と活動状況に係る情報発信をすることで、校内</p>	<p>①日々の学校生活の中で人間関係や進路に係る相談が増えてきていることから、担任・学年団をはじめ、SC・SSW、メンター等との協働、情報共有を進め早期の課題・問題解消を図る。</p> <p>②部活動の活性化のための条件整備や顧問・指導者の適正な配置を通じて、生徒の期待に応えるほか、主体的な</p>

	視点	4年間の目標 (令和6年度策定)	1年間の目標	取組の内容		校内評価		学校関係者評価 (3月10日実施)	総合評価(3月19日実施)	
				具体的な方策	評価の観点	達成状況	課題・改善方策等		成果と課題	改善方策等
			て生徒会活動としての部活動に安全に取り組む責任感を育む。	流に繋げる。		また、生徒会の生徒が社会貢献活動に意欲的に取り組むことで、生徒全体の支援活動の意識が向上した。また、図書館では、昇降口モニターに必読書・推薦書を掲示し、生徒に周知した。	後の個別対応の時間不足が課題となった。 ②引き続き大会前後のホームページの更新や昇降口モニターへの情報更新を部活顧問らに呼び掛けていく。また、本年度は生徒会執行部が積極的なため、情報収集やモニター発信についての協力を探っていくとよい。	②ホームページによる広報の効果に鑑み、適時更新による情報発信が必要である。	や入学を希望する中学生、保護者、地域の方々の理解と支援を受けることができた。校内への情報発信を更に充実させることが課題である。	取組としての生徒会活動やボランティア活動、読書活動など、生徒自身が参加できる機会を多く設ける。
3	進路指導・支援	①自己と集団や社会との関わり、職業観、倫理観、使命感等を育成する。 ②自他の幸福を追求し、自立し、たくましく生きるための基礎力を身に付けさせる。	①生徒が10年後の自分をイメージし、自己の人生をプランニングできる能力を開発する。 ②生徒の他者を思いやる心や、社会に貢献する意欲を育む。	①生徒に単に進路希望を問うだけでなく、自己の生き方あり方を問いかけるガイダンスを実施する。 ②個別学習で基礎力を高めるとともに、自他の考えを共有・尊重し、進路やライフプランに繋げる指導を行う。	①進路支援グループ職員を核とし、各学年の教職員が共通の視点で指導を行ったか。 ②学習支援アプリを全学年導入し、個に対応した学びを充実させることができたか。	①LHRや総合的な探究の時間を活用して進路に関する人生観を育成することができた。 ②学校生活や行事等の中で、自己と集団とのかかわりを意識させることができた。	①担任による差が生じないよう、教員間のさらなる情報共有を徹底したい。 ②これまでの学習により生まれてしまった他者との差を埋めるためのサポートにも力を入れていきたい。	①進路実績の向上は総合型選抜・一般選抜共に伸展している。上級学校進学に向けての目標意識もしっかり持たせたい。 ②社会貢献意識の向上や具体的な取組についても進路と合わせた指導・支援を期待したい。	①教員のチームでの作業や教育活動の成果から、多様な価値観を育む教育を展開できた。 ②他者を思いやり、行動できる姿勢を涵養できた。	①LHRや総合的な探究の時間以外でも進路意識を高めるキャリア教育を展開していく。 ②思いを行動に移す力をつけ、良好な人間関係を構築する。
4	地域等との協働	①家庭、地域の教育力を活用し 地域との交流活動を通し、保護者や地域に信頼される学校づくりをめざす。	①本校HP、SNS等でのコンテンツを充実させる。 ②学校運営協議会委員との協働等により、様々な形の地域連携を模索する。	①各媒体の更新頻度を増やし、コンテンツの作成手順を確立させる。 ②地域が本校に対し、どのような貢献を求めているか、学校運営協議会等を通じて情報収集し、可能なところから協力していく。	①HPの更新頻度が令和6年度に比べて増加したか。内容が整理されているか。 ①発信する内容を精査し、必要な情報が、必要とする人に届いているのか検証する。 ②学校運営協議会等の提案や意見等の情報を地域貢献に生かすことができたか。	①HP更新の部門は広がりを見せた。量的な問題については、今後継続して取り組む。 ②学校運営協議会並びに部会での提案・意見を地域交流、貢献に生かすことができた。	①マニュアル整備、各部門への告知と、業務アシスタント依頼を進め、HP更新を促す土台を整備する。 ②地域防災やイベントの周知、生徒の参加促進を計画的に行っていきたい。	①HPの情報発信の有用性に鑑み、地域への生徒による情報発信を増やしていきたい。 ②地域の祭りや清掃活動への参加、小中学校との連携など多岐にわたる活動は評価できる。防災などでも今後協働できるものがあれば、進めることを期待したい。	①HP更新や情報発信を頻度よく行うことで地域の理解を得られた。 ②学校運営協議会等での提案や地域の意見、支援による取組を行うことができた。	①HPをはじめ情報発信機会の向上を図る。 ②地域と生徒が直接交流する機会を設けることを目指していく。
5	学校管理 学校運営	①安全で安心な学習環境の維持に努め、点検・改善に努める。 ②信頼かつ信用ある学校経営に努め、事故不祥事根絶に向け、強い決意をもって臨む。	①広報活動の多様化、頻度の向上を目指す。 ①防災委員会や通じて生徒の防災意識を高める教育活動を行う。 ①環境整備委員会の生徒を中心に美化活動と資源の再利用に努める。 ②成績処理マニュアルを作成し、成績処理業務における事故の未然防止に努める。 ②教員の働き方改革に対する理解を深め、改善を進める。また、事故防止・不祥事根絶の意識・実践を進める。	①各種説明会、学校案内、HP、SNS等を通じて発信をし、生徒及び保護者の求める内容の広報活動を行う。 ①通常の防災訓練の他、DIGやシェイクアウト訓練等を実施する。また、地域との連携も検討する。 ②成績処理マニュアルにより成績処理の手順を各教員が把握し、複数の目で点検する体制を作る。 ②事故・不祥事防止会議の定期的な開催による意識啓発を行う。 ②業務の負荷軽減や時間外労働の縮減、業務の見直しを通じ、働き方改革を進める。	①広報活動の内容を量的に評価するとともに、必要とする人に届いているのか検証する。 ①防災委員会の生徒向けアンケートを通じて生徒の防災意識が高まったか。 ①環境整備委員会の生徒向けアンケートを通じて生徒の校内美化意識や資源回収意識が高まったか。 ②成績処理手順を各教員が把握し、連携して成績処理を行える体制が作れたか。 ②不祥事防止等について、適時適切な啓発機会等を持てたか。 ②前年度に比べ時間外労働の低減と業務改善に取り組めたか。	①学校説明会等の意見を聞き、広報内容の修正をしながら改善を進めた。 ①アンケート等を通じSNS等の各広報媒体の閲覧状況について検証を行った。 ②成績処理機会、入学者選抜に際して手順の確認徹底と事故不祥事防止会議での注意喚起等を行い円滑な成績処理を行うことができた。 ②事故・不祥事防止会議を職員会議時等に13回実施し時宜に応じた事故防止・不祥事防止につとめることができた。 ②前年度に比べ時間外労働の低減に努め、職員の意識向上と効率的な業務を行うことができた。	①継続して、説明会などのアンケート等を受けての改善を進める。その一方で、アンケート結果の受け止め方も精査する。 ①SNS等においては媒体による閲覧状況の差により、今後は精査をしていく。 ②職員のみならず、外部指導者の活用、増加に合わせて事故不祥事防止の徹底を広く図る必要がある。 ②職員働き方改革、時間外労働の削減を更に進める必要がある。	①安全安心な学校作りや防災活動については、訓練や周知を継続して行い、備えを万全にしてほしい。 ②不祥事防止に係る資料提供、情報共有は必要で、職員に対する啓発、注意喚起に努め、事故・不祥事防止を進めてほしい。	①学校説明会を始め広報活動を充実させ、本校を志望する中学生・保護者の理解を得られた。 ②成績処理を適正正確に行った。またその結果をもとに生徒の意欲関心を引き出した。 ②事故・不祥事防止会議を通じて様々な事故防止を図った。 ②時間外労働縮減への意識が高めることができたが、偏りも残った。	①学校説明会のみならず地域の中学生や保護者への情報発信を定期的に行っていく。 ②引き続き事故不祥事防止会議を通じて適正な業務執行に努める。 ②教員の働き方改革について、時間外労働時間削減など一定の目標を持って、取り組む。